



## 「主の恵みを振り返って」

ここブラジリアは、冬から春に移行し、道端のマンゴーの実が少しずつ膨らみ始めています。いまだ乾期のため、100日以上雨が降っておらず、乾燥と埃で体調を崩す人も増えていますが、恵みの雨を待ち望みながら日々を歩んでいます。残暑厳しい日本のみなさまのことも覚えながら、ブラジル宣教の恵みをお分ちしたいと思います。

7月の冬休みには「日本語キャンプ」が7年ぶりに開催、日本語学校の生徒を中心に45名ほどが参加し、自然豊かなキャンプ場での運動会、書道や将棋、着物や折り紙などのワークショップ、屋台風いろいろな日本食が食べられる「日本祭り」などで参加者の笑みがあふれました。

私は「よろしく」というテーマで3回の説教を担当しました。このテーマは、ある結婚式で新郎が新婦にかけた「よろしく」という言葉にヒントを得て、神との信頼関係を築くことに焦点を当てたメッセージとなりました。神の方から「よろしく」と手が伸べられているのに、罪のゆえに神に立ち返ることができない人間、しかし御子イエスの十字架を通して「こんな私ですが、よろしくお願ひします」と神に近づくことが許された私たち人間。そして「これ、よろしくね」と私たちに働きを委ねてくださる神のご愛があることを伝えました。参加者の表情やアンケートから、多くの方が神に近くされたことを知ることができ、主の御名を崇めました。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した」エレミヤ31:3のテーマ聖句がいつまでも参加者の心にとどまり響きますようにと祈らされています。キャンプ後、数名の生徒が日本語学校に加えられ、教会の交わりにも参加しています。

8月は、戦後80年を迎え、ブラジリアでも「広島・長崎の原爆」を紹介する展示会がありました。私も昨年暮れに広島の原爆資料館を訪れましたが、ヴァルゼンボニータなどの訪問先で戦争の話題になると、終戦直後の日本でいかに少年期を過ごし、その後ブラジルに渡って来られたのかを多くの方が話してくださいました。

小山さんは朝鮮からの引き揚げ家族で、少年期を輪島で過ごし、大学で東京に出た後、中退してブラジルに渡られました。当初は農場で奴隷のように働かれ、報酬を騙し取られたとも。その後、新天地にブラジリアを選び、農業に専心。今は息子さんが畑仕事を継ぎ、小山さんはNHKを見ながら日本を懐かしむ日々を過ごしていますが、故郷輪島が地震の被害に遭ったことに心を痛めておられます。

同じヴァルゼンに住む沖縄出身の比嘉さんは、若い時トマト作りで成功するも「運が良かったんだね」とご自分の

努力を誇ることもなく、淡々と昔の話をされます。当初この地を訪問伝道していた二宮宣教師には、苦しいとき大変お世話になったと。先日は初めてお部屋を見せてくださり、元大田昌秀沖縄県知事の直筆の書が壁に掲げられていました。甥御さんは琉球太鼓の人間国宝であった比嘉聰さんとのこと。今は比嘉さんのお孫さんが毎週金曜夜のフットサルに参加し共に汗を流しています。

訪問を続ける中で、ヴァルゼンボニータの一人ひとりの心が開かれています。福音の恵みがこの地域のご家庭の隅々にまで浸透し、神の家族に加えられていきますように。予定している子ども集会の祝福をお祈りください。



「日本語キャンプ」写真集

## 近況と祈りのお願い

- ・ブラジリア教会が御霊の一致のなかで前進できるように。
- ・ヴァルゼンボニータの全家族の救いと教会誕生のために。
- ・家族の健康と経済が守られ、宣教のわざを継続できるように。
- ・四人の息子たちがそれぞれにふさわしい道に歩めるように。
- ・神の御霊と御力によってみことばを説き明かせるように。

## 2025年5-7月 献金のご報告と感謝

(\*4/23-30日分を含む)

	(5-7月分)	(累計: 1-7月分)
指定献金:	621,406 円	1,693,122 円
現地支援:	225,550 円	494,350 円
合計:	846,956 円	2,187,472 円

## 2025年 献金目標額: 410万円

「浜田宣教師指定」300万円+現地支援110万円(補正がありました)

日本同盟基督教団 ブラジル宣教師 浜田献・陽子/真理生・湧希・聖也・翔

住所: CEP 71705-024 Av.Contorno, Bloco 1125, casa 11, N.B. -DF BRASIL

E-mail: kenyokobrasil@gmail.com

献金先: 郵便振替 00120-5-142886 日本同盟基督教団事務所 (「浜田宣教師指定」とご明記下さい)